

ドラマティック日本史第5弾

“明治初期の京都①「廃藩置県」と土族の反乱

講師：山村 純也先生

日時：2026年9月14日（月）10:00～11:40



「明治初期の京都」シリーズの第1回目の講座。江戸幕藩体制の崩壊から明治政府の誕生を経て土族の終焉を迎えるまでの歴史を経済からの視点を盛り込み、来年の大河ドラマ「逆族の幕臣」の主人公である小栗忠順の話題もまじえながらお話して頂きました。

■明治政府の誕生から廃藩置県まで

●幕藩体制

江戸時代に成立した幕府と諸藩の全国を統治する支配体制を指し中央に幕府があり地方に藩がある形で幕府は全国の4分の1の石高の直轄領を保有。

●明治政府の誕生と基本方針

1853年のペリー来航を契機に尊王攘夷運動が起こるが、外国からの圧力が強まるにつれ金の流出、物価高騰等が発生。幕府の政治に不満が高まり薩摩藩や長州藩等が幕府に変わる新しい政府を目指した。幕末に起こった戊辰戦争は鳥羽・伏見の戦いを戦端とし、江戸城無血開城、上野・会津戦争、函館戦争で新政府軍が勝利し戊辰戦争が終結。明治政府が誕生し新政府は五箇条の御誓文を發布し新国家建設の新方針を示す。

■明治政府の制度改革と征韓論

●版籍奉還

明治2年、まず雄藩として幕末を牽引した薩長土肥の四藩主が領地と人民を朝廷に返還し、その後他藩も続々とならい政府は全国の支配権を手中におさめた。

●廃藩置県と中央集権国家の確立

明治4年、全国の藩を廃して府県を置き、知藩事は全員失職となり、元藩主の家系は新しい身分層である「華族」となる。明治政府は徴兵制度を敷いて直属軍を創設し、四民平等、秩禄処分、廃刀令等によって武士を解体。地租改正により税制を全国画一的な地租に改めて中央集権国家を確立した。

■不平土族の反乱

●征韓論

西郷隆盛・板垣退助らが朝鮮に開国や国交を主張した論で、欧米視察より帰国した岩倉具視・大久保利通が退けたため征韓論を唱えた一派は下野した。



●勃発する士族の反乱

明治政府は大名、武士階級を廃止して華族、士族を創設し、四民平等政策を実施。武士は秩禄処分により俸禄制度が撤廃され、廃刀令により身分的特権も剥奪される。全国の士族層は各地で反乱を起こした。

＜佐賀の乱＞

明治政府に対する最初の大規模な士族の反乱で江藤新平と島義武が佐賀で起こした反乱。政府軍により短期間で鎮圧される。

＜神風連の乱＞

神道や国学を重んじる思想を持つ「敬神党」が起こした反乱で熊本鎮台や県庁を襲撃。

＜萩の乱＞

明治九年、山口県の萩で起きた前原一誠を首領とする。長州出身者が多い明治政府に同じ長州の不満を持つ士族が反乱した事件。政府軍に1週間程度で鎮圧される。

＜西南戦争＞

征韓論で下野した西郷隆盛を擁した士族最大の反乱。熊本鎮台で激しい砲撃戦が展開された後、田原坂の戦いで激戦が繰り広げられ、その後薩摩軍は城山にこもり、明治十年、西郷隆盛が自刃。士族が大規模な軍事力をもって政府に抵抗した最後の戦いで武士が政治や軍事の中心を担ってきた時代がこの戦乱をもって終焉を迎えた。



（講座風景）

（記事：広報担当 古川洋之）